

レモネード・ジョー 或いは、ホースオペラ (1964)

LIMONADOVY JOE
LEMONADE JOE [米]
LIMONADOVY JOE ANEB KONSKA OPERA

メディア 映画

ジャンル コメディ 西部劇

製作国 チェコスロヴァキア

色彩 Color

時間 99分

初公開日 1993/08/28

公開情報 アーバン 2 1

【解説】

いわゆる一つの西部の町に、主人公の清涼飲料水セールスマン、ジョーはやってくる。彼の天敵は酒。匂いを嗅ぐだけで気絶だ。酒場の主の名はバッドマン。神父はグッドマン。超分かり易い設定の中、百害あって一利無し、アルコールを一掃し、健康によいレモネードを飲もう！というわけで、素敵に強引な活躍してくれる我らがジョーに、酒場の歌手の竜巻ルウも、牧師の娘の清純な娘ウィニフレッドも、我々だって一目惚れ。「サボテン・ブラザーズ」と共に、息抜き映画の一、二位を争う傑作（たまたま同じような世界を描いてますが）。'64年という製作年度を考えれば、西部劇に対しこれほどノスタルジーを持つのが不思議に思えるが、後に「アデラ／ニック・カーター、プラハの対決」でサイレントの連続活劇の世界を蘇らせたリップスキーの興味は、今では失われたジャンル、歌うカウボーイの世界“ホース・オペラ”に向いている。セピアの画面にヨーデル声で、ジーン・オートリーやロイ・ロジャースよろしく唄いながらジョーが登場するやいなや、この、パロディ劇というよりはチェコ映画らしい、コミックと音楽とアニメ（イジィ・プルデチュカが特撮に協力している）の三位一体の手作り感覚のユーモアの虜になってしまう。

【クレジット】

監督	オールドリッチ・リップスキー	Oldrich Lipsky
脚本	イジー・ブルデチュカ	Jiri Brdecka
	オールドリッチ・リップスキー	Oldrich Lipsky
撮影	ヴラディミール・ノヴォトニー	Vladimir Novotny
音楽	ヤン・リフーリク	
出演	カレル・フィアラ	Karel Fiala
	クヴェタ・フィアロヴァ	Kveta Fialová
	オルガ・スホベロヴァ	Olga Schoberová